

I 学 習 目 標

ブロック6ではB1での「人間生物学」における人体構造と機能の基本学習、B2～B5における器官系別の学習を再び統合して、包括的に発生・出生から加齢、死へと至るLife cycle、すなわち“時間”を軸として、人体に生じる医学的事象を理解する。その間人間が生きていくなかで生じる健康と疾病／障害と社会との関わり、保健・医療・福祉などの問題を心理的、倫理的、社会的背景を取り込んで全人的医療を行うための学習する。

臨床思考力を高める。このために後期テュートリアルで“診療問題解決型”テュートリアルを行い、臨床推論法を修得する。チームベースラーニング（TBL）では、臨床推論法だけでなく医師が臨床の各場面で直面する決断力を高める。

病院実習への準備状態を完成する。すなわち、臨床診断各論と病理実習（クリニコパソロジカル・カンファレンス；CPC）を通じて、診断に必要な症候から疾患を考える知識と基本的技能の獲得を目的とする。同時に医師としてのマナー、態度、人間性を養う。

Ⅱ 到達目標

目次

A 包括的到達目標	4
B 各科の到達目標	6
性と生殖器系到達目標	6
妊娠と出生の医学到達目標	17
成長・発達と小児の医学到達目標	24
加齢・老化と高齢者の医学到達目標	37
環境と健康・疾病・障害到達目標	40
社会制度と保健・医療・福祉到達目標	44
臨床診断各論到達目標	50
剖検検討臨床病理実習（学生 CPC）到達目標	53
腫瘍—基礎と臨床—到達目標	55

包括的到達目標

- I 性と生殖について正常構造と機能を説明することができる。
 1. 男性性器の構造と機能
 2. 女性性器の構造と機能
 3. 性ホルモンと性機能
 4. 妊娠
 5. 分娩
 6. 産褥

- II 性と性器の異常についてその病因、病態生理、主要症候、診断、検査および治療を説明することができる。
 1. 性の分化とその異常
 2. 男性性器の構造および機能の異常
 3. 女性性器の構造および機能の異常
 4. 性機能異常と不妊

- III 周産期の異常、胎児・新生児の成長・発達の障害についてその病因、病態・症候、診断、検査および治療を説明することができる。
 1. 妊娠の異常
 2. 分娩の異常
 3. 産褥の異常
 4. 胎児の異常
 5. 出生に伴う障害
 6. 新生児の異常
 7. 先天異常（染色体異常、性分化異常、心血管、腎尿路・消化器）

- IV 発生および出生前から思春期に至る小児の成長・発達について、理解し説明することができる。
 1. 胎児
 2. 新生児
 3. 小児（乳児・幼児・学童）の成長・発達
 4. 思春期・青年期における身体成長・発達と精神発達

- V 泌尿器・性器疾患について病因、病態生理、症候、診断、診察法、検査および治療を述べることができる。
 1. 男性性器疾患
 2. 女性性器疾患

- VI 生活習慣や生活環境あるいは職業的因子による健康障害について病因、病態、症候、診断、検査および治療を説明することができる。また社会医学的観点から健康の維持、増進について考えることができる。
 1. 環境と健康
 2. 環境と健康
 3. 産業保健
 4. 国際保健
 5. 異状死、突然死、事故死

- Ⅶ 社会制度と保健、医療・福祉および医療経済の現状について述べることができ、これからのあり方について考えることができる。
1. 保健と予防
 2. 医師と法規
 3. 保健医療
 4. 社会保障、福祉、医療経済
 5. 医療・病院管理
 6. 医療の質・リスクマネジメント
- Ⅷ 加齢と老化についてその構造的・機能的変化の特徴を説明することができる。
1. 細胞・組織の加齢現象
 2. 加齢による臓器およびその機能の変化
 3. 中・高年の生理的特徴
 4. 中・高年の心理的特徴
 5. 中・高年の保健と福祉
- Ⅸ 加齢と老化による健康障害と疾患についてその病因、病態、症候、診断、検査および治療を述べることができる。
1. 中・高年期の精神障害
 2. 中・高年期の各器官系疾患
 3. 中・高年期の外科治療と麻酔
 4. 老人保健・老人医療の現状と展望
- X 末期医療と死について医学的、倫理的、社会的側面から現状を述べ、考えを述べることができる。
1. 死について
 2. 末期医療、ホスピス医療について
 3. 医の倫理
 4. 社会医学的側面（自殺、他殺）
- XI 腫瘍についてその病理・病態、発生病因・疫学・予防、主要症候、診断・治療と診療の基本事項を説明することができる。
1. 腫瘍の病理・病態
 2. 腫瘍の発生要因・疫学・予防
 3. 腫瘍患者の症候
 4. 腫瘍の組織・画像・遺伝子診断
 5. 腫瘍の治療（手術療法、化学療法、放射線療法、支持・緩和療法、集学的治療）
 6. 腫瘍の診療におけるチーム医療
 7. 腫瘍の診療における生命倫理
- XII 病院実習に出る前の準備状態を完成するため、基本的臨床技能（医療面接法、身体診察法）の手技および態度を身につけ、診断に必要な情報を収集することができ、問題志向型システムに基づいた診療録に記載することができる。また病院内のチーム医療のあり方、リスクマネジメントについても理解し、適切に行動できるようにする。
1. 問題志向型システム（POS）とそれに基づいた診療録（POMR）
 2. 医療面接
 3. 身体診察法
 4. チーム医療
 5. リスクマネジメント
- XIII 剖検例について、臨床診断および病理診断を行うことができ、病因と病態について述べることができる。

性と生殖器系到達目標

大 項 目	中 項 目	小 項 目
I . 生殖器の形態と機能	1. 女性生殖器の発生と構造	1) 外性器・内性器 a) 外陰 (Bartholin 腺) b) 会陰 c) 膣 d) 子宮 (子宮体部、子宮内膜、子宮頸部、内子宮口、子宮峡部、外子宮口) e) 子宮支持組織 (広靱帯、円靱帯、仙骨子宮靱帯、膀胱子宮靱帯、基靱帯) f) 卵巣 [白膜、皮質、卵胞 (原始卵胞、発育卵胞、成熟卵胞、閉鎖卵胞)、黄体、白体、髓質] g) 卵管 (間質部、峡部、膨大部、卵管漏斗、卵管采) 2) 骨盤骨、骨盤底、Douglas 窩 3) 骨盤内の脈管系、神経系、骨盤内リンパ節 4) 乳房 (乳房、乳暈) 5) 正常画像と解剖 6) 女性生殖器の微細構造 a) 卵巣 (卵胞成熟過程：思春期前、成人) b) 卵管 (卵管采、膨大部、峡部) c) 子宮 (体部と月経周期、頸部、子宮腔部) d) 膣と女性尿道 e) 乳腺 (妊娠期、授乳期、休止期) f) 胎盤、臍帯
	2. 男性生殖器の発生と構造	1) 精巣の発生と分化 2) 男性性器の発生と分化 3) 局所解剖 a) 精巣 b) 精巣上体 c) 精管 d) 精囊 e) 前立腺 f) 射精管 g) 陰茎 h) Denonvilliers 筋膜 4) 男性生殖器の微細構造 a) 精上皮における精子発生と血液精巣関門 b) 精巣間質と Leydig 細胞 c) 精路の構成および精索に含まれる構造について d) 付属腺 (精囊・前立腺・尿道球腺) e) 外生殖器 (特に陰茎海綿体、陰嚢壁)

大項目	中項目	小項目
II . 生殖器の先天異常	3. 女性生殖器組織と機能	1) 視床下部・下垂体・卵巣系 2) 卵巣周期 (卵胞期・黄体期) 3) 排卵 (卵と卵胞の発育と成熟) 4) 子宮内膜の周期的変化 (増殖期・分泌期) 5) 月経およびその発来の際序 6) 月経周期 (基礎体温)
	4. 男性生殖器組織と機能	1) 精子の生成、輸送、活性化 2) 勃起のメカニズム 3) 射精のメカニズム 4) 内分泌機能 a) 視床下部・下垂体・精巣系 feedback 機構 b) LHRH c) 下垂体ホルモン d) 副腎皮質ホルモン e) テストステロンとデハイドロテストステロン
	1. 性の分化と生殖器の発生	1) 性の決定因子 a) 遺伝子 b) 生殖器 c) 社会的性 2) 性分化異常 a) Wolff 管 b) Müller 管 c) Gartner 管 a～bの疾患について 1) 定義 2) 病因 3) 症候 4) 診断 5) 治療 6) 予後、社会医学的事項 1) 先天性副腎過形成症 (欠損酵素の種類) 2) 原発無月経 1) 性染色体異常 (XO、モザイク) 2) 原発無月経、体型異常 (短軀、小人症、翼状頸) 1) 性染色体異常 (XXY、モザイク) 2) 男性不妊、特徴的体型 1) 膣欠損、膣閉鎖 a) Rokitansky 症候群 b) 仮性半陰陽 c) 月経モリミナ
	2. 性分化、性染色体の異常 a. 性染色体異常に伴う性分化異常症 (Turner 症候群、Klinefelter 症候群など) b. 46, XY 性分化異常症 (アンドロゲン不応症など) c. 46, XX 性分化異常症 (アンドロゲン過剰など)	
	3. 女性性器の形態異常 a. 外陰 b. 膣	

大項目	中項目	小項目
Ⅲ. 性ホルモン 生殖機能	c. 子宮	2) 腔中隔 1) 子宮奇形の分類 a) 子宮欠損 b) 双角子宮 c) 双頸双角子宮 d) 中隔子宮 e) 副角子宮(副子宮) f) 重複子宮 2) 診断(子宮卵管造影) 3) 治療 a) Strassmann 手術 b) Jones & Jones 手術(不妊症、流産)
	4. 男性生殖器の先天異常 a. 停留精巣 b. 精索水腫 c. 鼠径ヘルニア d. 尿道下裂 e. 包茎	a～eの疾患について 1) 病因 2) 疫学 3) 分類 4) 症候 5) 診断 6) 治療
	1. 女性の性ホルモンとその異常	1) 視床下部・下垂体・卵巢系(視床下部ホルモン(視床下部ホルモン LH-RH, TRH, 下垂体ホルモン LH, FSH, プロラクチン(PRL)、卵巢ホルモン(エストロゲン(E) プロゲステロン(P)) 2) 視床下部・下垂体・卵巢系の動的関連フィードバック(positive feedback, negative feedback)、性周期におけるホルモン変化と形態的变化(子宮内膜、頸管、腔) 3) 排卵[卵と卵胞の発育と成熟(原始卵胞、発育卵胞、Graaf 卵胞、卵の成熟分裂、卵と卵胞の成熟とホルモン分泌の関係)][排卵(排卵の機構)(黄体(黄体形成、黄体維持、黄体萎縮、黄体ホルモン分泌)] 4) 子宮内膜[子宮の周期的変化(増殖期、分泌期)、月経周期(緻密層と海綿層、基底層)] 5) 月経[月経発来の機序(エストロゲン、プロゲステロンの消退、基礎体温(パターンの理解)]
	a. 思春期早発症 b. 思春期遅発症 2. 月経異常 a. 無月経	a, bの疾患について 1) 病因 2) 診断 3) 治療 1) 病因 2) 分類(原発・続発無月経・生理的無月経、第1度・第2度無月経間脳性無月経、下垂体性無月経、卵巢性無月経、子宮性無月経、心因

大項目	中項目	小項目
	<p>b. 希発月経 c. 頻発月経 d. 過少月経 e. 過多月経 f. Sheehan 症候群 g. 乳汁漏出症</p> <p>h. 神経性食欲（思）不振症 i. 多嚢胞性卵巣症候群</p> <p>j. 機能性子宮出血</p> <p>k. 月経困難症</p> <p>3. 男性機能の異常 a. 原発性性腺機能不全</p>	<p>性無月経、その他（体重減少、肥満性無月経、潜伏月経）</p> <p>3) 検査（P, E+P 負荷テスト、間脳・下垂体検査法、（LH-RH テスト）、卵巣機能検査法（血中 T, E, P 測定、ゴナドトロピンテスト）子宮内膜生検、腹腔鏡、染色体検査、月経誘発療法、排卵誘発療法）</p> <p>4) 治療 b～f の疾患について 1) 病因 2) 検査 3) 治療</p> <p>1) プロラクチノーマ 2) Chiari - Frommel 症候群 3) 薬剤性 4) 原発性甲状腺機能低下 5) GH 産生腫瘍 6) 検査（PRL, TRHテスト、トルコ鞍撮影）</p> <p>1) 病態生理 1) 定義、症状（無月経、肥満、多毛、PCOS(Polycystic ovary syndrome)、内分泌状態） 2) 診断 3) 治療（クロミフェン療法、卵巣楔状切除）</p> <p>1) 定義 2) 診断 随伴または鑑別病変（子宮筋腫、子宮頸癌、子宮体癌、子宮腔部びらん、子宮内膜ポリープ他） 3) 治療 1) 病因 a) 機能的（子宮後屈他） b) 器質的（子宮内膜症、子宮筋腫、子宮發育不全） 2) 診断 3) 治療</p> <p>1) 病因 2) 病態生理（内分泌異常） a) 視床下部・下垂体系調節 b) 男性ホルモン c) 副腎ホルモン 3) 症候</p>

大項目	中項目	小項目
IV. 診察と検査	b. 勃起障害 (ED)	4) 診断 a) ホルモン検査 b) 精液検査 c) 精巣生検 5) 治療 1) 病因 a) 心因性 b) 器質性 2) 症候 3) 診断 a) リジスキャン b) パパペリン試験 4) 治療 a) 薬物治療 (Sildenafil, PGEI, パパペリン) b) プロステージス
	1. 一般診察 2. 女性性器の診察と検査 a. 女性性器の診察	1) 問診 2) 全身診察 1) 視診 2) 内診、双合診 a) 方向 (前後傾、前後屈、他) b) 位置 (子宮脱、子宮下垂、他) 3) 触診 (直腸診) 4) 腔鏡診 5) 消息子診
	b. 検査	1) 膣分泌物 2) 膣部プールスメア、膣部擦過スメア、子宮頸管内スメア、体部スメア 3) コルポスコープ a) 正常 (偽びらん) b) 異常 (モザイク、赤点斑、白色上皮、白斑、異型血管、他) c) ねらい組織診 4) 子宮内膜搔爬 (頸部、体部) 5) 腫瘍マーカー 6) 子宮卵管造影 7) 子宮鏡・腹腔鏡 8) Douglas 窩穿刺 9) 超音波断層法 10) CT、MRI、PET
	3. 男性性器の診察と検査 a. 男性性器の診察	1) 視診 2) 触診 a) 陰囊内容 b) 前立腺 (直腸指診)

大項目	中項目	小項目
V. 生殖器の疾患	b. 検体検査 c. 経直腸的前立腺超音波検査 (TRUS)	3) 陰嚢透照 (徹照) 法 1) 精液検査 a) 精子数 b) 運動率 c) 奇形率 2) 前立腺液検査 3) 尿道分泌物検査 a) グラム染色 b) 細菌培養 4) 内分泌検査 5) 腫瘍マーカー a) 前立腺特異抗原 (PSA) b) hCG, hCG-β c) AFP d) CEA 6) 病理組織学的検査 (生検)
	1. 女性性器の感染症(STDを含む) a. 膣炎 b. 骨盤内炎症性疾患 (PID (pelvic inflammatory disease)) c. 子宮頸管炎 d. 子宮内膜炎・筋層炎 e. 付属器炎 f. 卵管留膿症 (腫) g. 子宮留膿症 (腫) h. 子宮旁結合織炎 i. 骨盤腹膜炎 j. 性器結核 k. 性感染症 (STD) l. 淋病 (淋菌感染症) m. 梅毒 2. 男性性器の感染症 a. 急性前立腺炎 b. 慢性前立腺炎 c. 急性精巣上体炎 d. 慢性精巣上体炎 e. 精巣炎 f. 亀頭包皮灸 g. STD (sexually transmitted diseases)	1) 病因 (Döderlein 杆菌、トリコモナス、カンジダ、非特異性細菌) 2) 診断 3) 治療 1) 種類 (STD: ヘルペス、パピローマ、クラミジア) 2) 社会医学的事項 1) 期別分類 a~g の疾患について 1) 病因 2) 病態 3) 症候 4) 診断 5) 治療 6) 予後 1) Mumps 1) 梅毒 a) Treponema pallidum b) 梅毒血清反応 2) 淋菌性尿道炎

大項目	中項目	小項目
	<p>3. 外陰の病変</p> <p>a. 外陰炎</p> <p>b. 尖形コンジローマ</p> <p>c. 急性外陰潰瘍</p> <p>d. バーチェット病</p> <p>e. Bartholin 腺炎</p> <p>f. 外陰腫瘍</p> <p>4. 子宮内膜症</p> <p>5. 絨毛性疾患</p> <p>a. 絨毛性疾患</p> <p>b. 胞状奇胎</p> <p>c. 侵入奇胎</p>	<p>a) Neisseria gonorrhoeae</p> <p>3) 非淋菌性尿道炎</p> <p>a) Chlamydia trachomatis</p> <p>4) AIDS</p> <p>5) 陰部疱疹</p> <p>1) 病因 (尖形コンジローマ、トリコモナス、カンジタ、非特異性細菌) ウイルス (ヘルペス、パピローマ)</p> <p>1) 病因</p> <p>1) Bartholin 腺膿瘍、Bartholin 嚢胞</p> <p>1) 前癌病変 (外陰ジストロフィー、外陰 Paget)</p> <p>2) 外陰癌</p> <p>a) 疫学 b) 病理 c) 期別分類</p> <p>d) 症状 e) 診断 f) 治療 g) 予後</p> <p>3) 黒色腫</p> <p>a) 定義 b) 診断 c) 予後 d) 術式</p> <p>1) 定義、分類</p> <p>2) 好発部位</p> <p>3) 症状、所見 (月経困難症、チョコレート嚢胞、不妊症)</p> <p>4) 診断 (腹腔鏡)</p> <p>5) 治療</p> <p>a) 偽妊娠療法</p> <p>b) 偽閉経療法</p> <p>c) 手術療法</p> <p>1) 定義</p> <p>2) 疫学</p> <p>3) 病理</p> <p>4) 分類</p> <p>1) 定義 (全胞状奇胎、部分胞状奇胎)</p> <p>2) 診断 (超音波断層法、hCG、LH レベル、β-hCG)</p> <p>3) 治療</p> <p>4) 管理・予後</p> <p>a) 胞状奇胎娩出後の管理 (BBT の有用性、hCG)</p> <p>1) 定義、病理</p> <p>2) 診断</p> <p>3) 治療</p> <p>4) 管理・予後(primary chemotherapy)</p>

大項目	中項目	小項目
	<p>d. 絨毛癌</p> <p>e. 存続絨毛症</p> <p>6. 良性卵巣腫瘍</p> <p>a. 漿液性嚢胞腺腫</p> <p>b. 粘液性嚢胞腺腫</p> <p>c. 線維腫</p> <p>d. Brenner 腫瘍</p> <p>e. 莢膜細胞腫</p> <p>f. 甲状腺腫</p> <p>g. 成熟嚢胞性奇形腫</p> <p>h. 卵巣貯留嚢胞[類副腎腫、卵胞嚢胞、黄体嚢胞(ルテイン嚢胞)]、Meigs 症候群</p> <p>7. 境界悪性卵巣腫瘍</p> <p>a. 漿液性嚢胞腺腫</p> <p>b. 粘液性嚢胞腺腫</p> <p>c. 顆粒膜細胞腫</p> <p>d. セルトリ・間質細胞腫瘍(中分化型)</p> <p>e. ステロイド細胞腫瘍</p> <p>f. ギナンドロプラストーマ</p> <p>g. 未熟奇形腫 (G1G2)</p> <p>8. 悪性卵巣腫瘍</p> <p>a. 漿液性腺癌</p> <p>b. 粘液性腺癌</p> <p>c. 類内腺癌</p> <p>d. 明細胞腺癌</p> <p>e. セルトリ・間質細胞腫瘍(低分化型)</p> <p>f. 未分化胚細胞腫</p> <p>g. 卵黄嚢腫瘍</p> <p>h. 胎芽性癌</p> <p>i. 絨毛癌</p> <p>j. 未熟奇形腫 (G3)</p> <p>k. 悪性転化を伴う成熟嚢胞性奇形腫</p> <p>9. 子宮筋腫</p>	<p>1) 定義・病理</p> <p>2) 診断 (PAG、絨毛癌スコア、転移の部分)</p> <p>3) 治療 (化学療法、手術療法)</p> <p>4) 管理・予後</p> <p>6～8の疾患全てに対して</p> <p>1) 頻度、好発年齢(充実性腫瘍と嚢胞性腫瘍)</p> <p>2) 症状 自・他覚症状(茎捻転、破裂)</p> <p>3) 診断、鑑別診断 超音波診断法、CT、MRI、HSG、ホルモン活性、腫瘍マーカー</p> <p>4) 治療</p> <p>a) 腫瘍摘出術</p> <p>b) 卵巣摘出術</p> <p>c) 付属器摘出術</p> <p>d) 単純子宮全摘出術+付属器切除術</p> <p>e) d + 骨盤リンパ節郭清術+大網切除術</p> <p>8の全てに対して</p> <p>a. 病理</p> <p>b. 期別分類 (0期、I期、II期、III期、IV期)</p> <p>c. 治療、予後(手術療法、second look operation、化学療法)</p> <p>1) 疫学(好発年齢、不妊、卵巣機能)</p> <p>2) 分類</p>

大項目	中項目	小項目
		<ul style="list-style-type: none"> a) 体部筋腫 b) 頸部筋腫 c) 粘膜下筋腫 d) 筋層内筋腫 (壁内筋腫) e) 漿膜下筋腫 f) 有茎筋腫 (筋腫分娩) 3) 症状、診断 <ul style="list-style-type: none"> a) 月経困難症 b) 過多月経 c) 貧血 4) 鑑別診断 (充実性卵巣腫瘍、子宮内膜症、子宮腺筋症、子宮体癌、子宮肉腫) 5) 続発性変化 (変性、悪性化) 6) 治療 <ul style="list-style-type: none"> a) 核出術 b) 腹式単純子宮全摘出術 c) 腔式単純子宮全摘出術 d) 筋腫合併妊娠 e) 薬物療法 (GnRH アゴニスト療法の適応と実際) f) 塞栓術
	10. 子宮肉腫	<ul style="list-style-type: none"> 1) 定義 2) 分類 3) 症状・診断 4) 鑑別診断 5) 治療・予後
	11. 子宮頸癌	<ul style="list-style-type: none"> 1) 疫学 (好発年齢、人種別、体癌との比率、性生活) 2) 病理 <ul style="list-style-type: none"> a) 扁平円柱上皮境界 (SCJ) b) 異形成 (dysplasia) c) 上皮内癌 d) 浸潤癌 e) 扁平上皮癌 f) 腺癌 3) 期別分類 (0期、I期、II期、III期、IV期) 4) 症状 (初期症状) 5) 診断 <ul style="list-style-type: none"> a) 細胞診 b) コルポスコピー c) 組織診 (狙い生検、円錐切除) d) 進展度の診断 (膀胱鏡、IVP、直腸鏡) 6) 治療法 (方法の選択) <ul style="list-style-type: none"> a) 手術療法 (円錐切除術、単純子宮全摘出術、準広汎子宮全摘出術、広汎子宮全摘出術、骨盤リンパ節郭清術) b) 放射線療法 (外照射、腔内照射) c) 化学療法

大項目	中項目	小項目
	12. 子宮体癌	d) 手術療法による副障害 (骨盤死腔炎、排尿障害、排便障害、Lymphocyst、尿瘻) e) 放射線療法による副作用 7) 予後 (期別予後) 1) 疫学 (好発年齢、人種差、頸癌との比率) 2) 病理 (分化度 (G1-3)) 3) 期別分類 (0期、I期、II期、III期、IV期) 4) 症状 a) 不正子宮出血 (閉経後出血) b) 子宮留膿症 (Simpson 徴候) 5) 診断 (内膜細胞診、内膜組織診) 6) 治療 a) 手術療法 (単純子宮全摘出術、広汎子宮全摘出術) b) 放射線療法 c) 化学療法 d) ゲスターゲン療法 7) 予後 (期別の予後)
	13. 前立腺肥大症	13~14 の腫瘍について
	14. 前立腺癌	1) 疫学 (発生頻度、人種、年齢) 2) 病因 3) 病態、病理 4) 症候 a) シンptom・スコア b) 尿流量測定 c) 残尿 5) 診断 a) 直腸指診 (DRE) b) 腫瘍マーカー (PSA) c) 経直腸超音波検査 (TRUS) d) 前立腺生検 e) 病期診断 骨盤 CT, MRI 骨シンチ 6) 治療 a) 薬物療法 a) ブロッカー LH・RH アナログ 抗男性ホルモン剤 b) 手術治療 TUR (経尿道的前立腺切除術) 被膜下前立腺摘出術 前立腺全摘術 (鏡視下、ロボット補助下) 去勢術 c) 放射線療法

大項目	中項目	小項目
VII. その他の男性性器の疾患	15. 精上皮種 (seminoma)	7) 予後 (生存率) 15～18の腫瘍に対して
	16. 非セミノーマ性胚細胞腫 a. 奇形腫 (teratoma) b. 胎児性癌 (embryonal carcinoma) c. 絨毛上皮腫 (choriocarcinoma) d. 卵黄囊腫腫瘍 (yolk sac tumor)	1) 疫学 a) 頻度 b) 好発年齢と組織像 2) 病因 3) 病態、病理 4) 症候 a) 陰嚢無痛性腫大 b) 女性化乳房 5) 診断 a) 触診 b) 腫瘍マーカー (HCG, HCG-β, AFP, CEA, LDH)
	17. その他の精巣腫瘍 a. Sertoli 細胞腫 b. Leydig 細胞腫	c) 陰嚢内超音波検査 d) 病期診断 腹部超音波検査、CT 検査 胸部 X-P、CT 検査 6) 治療 a) 手術治療 高位精巣摘出術 後腹膜リンパ節廓清 b) 化学治療 CDDP PVB 療法 c) 放射線療法 7) 予後
	18. 陰茎癌	
	1. 性器外傷 a. 陰茎折症 b. 精巣損傷	1～4の疾患に対して 1) 病因 2) 病態 3) 症候 4) 診断 5) 治療 6) 予後
	2. 陰嚢水腫(腫)、精索水腫(腫)	1) 陰嚢透光性試験 2) 手術治療
	3. 精索静脈瘤	
	4. 精巣捻転症	1) Prehn 徴候 2) 超音波ドップラー法

妊娠と出生の医学到達目標

大項目	中項目	小項目
I . 総論	1. 胎児の発生と発育	
II . 妊娠の成立	1. 妊娠の生理 (妊娠の成立と母体の生理現象)	1) 性器の変化 2) 全身の変化 (性器外変化)
	2. 受精のメカニズム	1) 受精の生理 (卵と精子の成熟、受精の機構) 2) 受精卵の分割と輸送 3) 着床 (子宮内膜の変化 (脱落膜の形成)、着床機構、内分泌調節)
	3. 胎児胎盤系	1) 胎児胎盤循環 (Botallo 管、Arantius 管) 2) 内分泌 (hCG, hPL, エストリオール) 3) ガス交換と物質代謝
III . 不妊	1. 不妊症	1) 定義 2) 病因分類 (原発不妊、続発不妊、男性不妊、女性不妊、機能性不妊、器質性不妊、排卵障害、受精障害、着床障害) 黄体機能不全 3) 検査 (卵管疎通性検査法、排卵時期の診断法、精液検査、精子頸管粘液適合試験) 4) 診断 (基礎体温 (BBT)、子宮卵管造影 (HSG)、通水通気 (Rubin テスト)、通色素法、Hühner テスト、頸管粘液検査、子宮内膜組織診、月経血培養、腹腔鏡、子宮鏡、内分泌検査、染色体検査) 5) 治療 (排卵誘発法 (クロミフェン、hMG-hCG、LH-RH)、副作用 (卵巢過剰刺激症候群) 卵管形成術、通水法、人工授精 (AIH, AID, GIFT)、体外受精・胚移植 (IVF-ET, 顕微授精)
	2. 男性不妊	1) 定義: 乏精子症、無精子症、精子無力症 2) 病因 3) 検査 (精液検査、精巢生検、精管造影) 4) 治療
	3. 体外受精	1) 適応 2) 手技 3) 医学的・倫理的問題
	4. 不育症 (習慣流産)	1) 定義: 原発、続発 2) 頻度 3) 原因 (子宮の形態異常、内分泌異常、感染症、染色体異常)

大項目	中項目	小項目
IV . 妊娠と胎児発育	1. 発生の分子メカニズム (生理学的側面) 2. 臓器形成(発生生物学的側面) 3. 妊娠の管理 a. 妊娠診察 4. 多胎妊娠	免疫性(同種免疫、自己免疫=抗リン脂質抗体、ループスアンチコアグulant) その他 4) 治療
		1) 妊卵、胎芽、胎児 2) 器官形成期 3) 成長の評価 4) 成長のパターン
		1) 呼吸器系 2) 心臓・脈管系 3) 消化器系 4) 内分泌・代謝系 5) 血液・造血管系 6) 免疫系 7) 腎・泌尿器系 8) 生殖器系 9) 神経系 10) 感覚器系 11) 運動器系
		1) 妊娠の診断 2) 妊娠時期の診断 3) 胎児に対する診察(Leopold 診察法) 4) 妊婦検診 5) 頸管成熟度(Bishop スコア) 6) 妊娠中の緊急時の状態把握
V . 妊娠中の異常	1. 流産 2. 早産	1) 定義 2) 種類(切迫流産、進行流産、不全流産、完全流産、稽留流産、習慣流産) 3) 原因(母体側原因、胎児側原因) 4) 病理・症状 5) 検査(hCG、超音波断層法) 6) 診断(鑑別診断)
		1) 定義(人工早産、自然早産) 2) 原因(羊膜絨毛膜炎、頸管炎、頸管無力症) 3) 治療(β 2-刺激剤、頸管縫縮術) Shirodkar 手術、McDonald 手術) 4) 予後

大項目	中項目	小項目
	3. 子宮外妊娠	<ol style="list-style-type: none"> 1) 定義 2) 分類、頻度 (卵管妊娠 (膨大部妊娠、峡部妊娠、間質部妊娠)、腹膜 (腔) 妊娠、卵巢妊娠、頸管妊娠) 3) 原因 4) 病理 5) 症状 6) 診断 (妊娠反応、Douglas 窩穿刺、超音波診断、腹腔鏡検査)
	4. 妊娠高血圧症候群	<ol style="list-style-type: none"> 1) 定義、分類 (純粹妊娠中毒症 (軽症、重症)、子癇 (妊娠、分娩、産褥)) 2) 原因 3) 病理、病態生理 (胎盤所見) 4) 頻度 5) 症状 6) 診断 (予知、予防) 7) 治療 (食事療法、薬物療法) 8) 母児の管理 9) 母児の予後 (児死亡、SGA (small for gestational age) の発生、症状) 10) 子癇 (診断 (鑑別診断)、治療、予後)
	5. 胎盤の異常	
	a. 常位胎盤早期剥離 (子宮胎盤溢血)	<ol style="list-style-type: none"> 1) 定義 2) 病理 3) 症状 (DIC) 4) 診断、鑑別診断 5) 処置、管理
	b. 前置胎盤	<ol style="list-style-type: none"> 1) 定義、分類 (全前置胎盤、部分前置胎盤、辺縁前置胎盤) 2) 症状 (予告出血) 3) 診断 (超音波断層法、倚褥感) 4) 鑑別診断 5) 処置、管理
	c. 低置 (位) 胎盤	<ol style="list-style-type: none"> 1) 診断 2) 管理
	6. 合併症妊娠など	
	a. 血液不適合妊娠	<ol style="list-style-type: none"> 1) 定義 2) 分類 (ABO 不適合、Rh (D) 不適合、その他の血液型不適合) 3) 検査 (Rh 型、間接クームス試験、直接クームス試験、羊水分析) 4) 管理 (交換輸血、光線療法) 5) 次回妊娠の予防、予後 (抗 Rh ヒト免疫ガンマグロブリン)
	b. 過期妊娠	<ol style="list-style-type: none"> 1) 定義 (分娩予定日補正) 2) 検査、診断 (胎児胎盤機能検査)
	c. 胎盤機能不全症候群	<ol style="list-style-type: none"> 3) 児への影響

大項目	中項目	小項目
	d. 子宮内胎児発育遅延 (Intrauterine fetal growth retardation, IUGR)	1) 定義 2) 原因 3) 診断
	e. Heavy for gestational age	
	f. ハイリスク妊娠	
	g. 偶発合併妊娠	1) 頻度 2) 種類 (合併症が妊娠母体に与える影響、合併症が胎児に与える影響、妊娠が合併症に与える影響)
	h. 性器奇形、位置異常	1) 子宮奇形 (子宮欠損、双角子宮、双頸双角子宮、副角子宮 (副子宮)、重複子宮、診断・治療 (HSG, Strassmann 手術、Jones & Jones 手術 (不妊症、流産)))
	i. 子宮筋腫	
	j. 子宮頸癌	
	k. 卵巣腫瘍	
	l. 心臓・血管疾患	1) NYHA 分類
	m. 血液疾患	1) 貧血
	n. 泌尿器疾患	2) ITP 1) 腎炎 2) 腎不全
	o. 肝・胆道疾患	1) 黄疸 2) 肝炎 3) 急性妊娠脂肪肝 4) HELLP 症候群
	p. 呼吸器疾患	
	q. 内分泌・代謝疾患	1) 種類 (糖尿病、甲状腺疾患)
	r. 自己免疫疾患	1) 全身性エリテマトーデス
	s. 感染症 (母児感染、垂直感染)	1) 梅毒 2) サイトメガロウイルス感染症 3) 風疹 4) B 型肝炎 5) ヘルペス感染症
	7. 出生前診断と胎児治療	
	a. 羊水診断	1) 染色体分析 2) 生化学的検査 (胎児成熟度の検査 (サーファクタント、△OD450)、L/S 比、shake test、血液型不適合妊娠)
	b. 胎児機能・胎児胎盤機能	1) エストリオール (E3) 2) hPL 3) 酸素 4) 胎児発育度 5) 胎児成熟度 6) 羊水鏡 7) 胎児心拍数図
	c. 胎児発育	1) 胎児超音波検査 (Doppler 法、B モード) 2) biophysical profile score
	d. 遺伝子病	1) 種類 2) 診断

大項目	中項目	小項目
VI. 分娩	e. 染色体異常 f. 胎児病	1) 種類 1) 種類 2) 診断
	g. 多胎 h. 胎児発育不全	1) 病因 2) 診断
	i. 溶血性疾患 j. 形態異常	1) 種類(無脳症、小頭症、水頭症、脊椎破裂、唇裂、口蓋裂、横隔膜ヘルニア、気管食道瘻、消化管閉鎖、臍帯ヘルニア、消化管破裂、鎖肛) 2) 診断
	k. 胎児水腫 l. 子宮内胎児死亡	1) 死胎児症候群 2) 超音波診断法
	1. 分娩の生理三要素	
	a. 産道	1) 骨産道(入口部(真結合線、入口の形態)、潤部、峡部(坐骨棘)、出口部(恥骨開角、結節間距離)、骨盤誘導線(骨盤軸)) 2) 軟産道(産道の形成・通過管(頸管の開大・短縮・子宮下部の形成))
	b. 娩出物(胎児)	1) 児頭(縫合・泉門、児頭計測、児頭の変形(応形機能)、産瘤) 2) 胎向(第1、2胎向) 胎位(頭位、骨盤位、横位、斜位) 胎勢(屈位、反屈位)
	c. 娩出力	1) 陣痛(陣痛の性格、発来機序、陣痛の計測、妊娠陣痛、前駆陣痛、分娩陣痛、後陣痛) 2) 腹圧
	2. 正常分娩の経過と管理	
	a. 分娩の経過	1) 産徴(血性分泌物) 2) 開始 3) 分娩時期(第1期(開口期)、第2期(娩出期)、第3期(後産期)、止血の機序) 4) 破水(適時破水、非適時破水(前期破水、早期破水、遅滞破水)) 5) 児頭の浮動、進入、固定、嵌入、下降 6) 回旋(第1～4回旋) 7) 児の娩出(排臨、発露、応形機能、骨重積) 8) 胎盤の娩出(剥離機転、胎盤後血腫、剥離徴候(胎児面より娩出、母体面より娩出、混合型娩出))
b. 管理	1) 分娩時期の診断 2) 胎児の位置の診断 3) 胎児の大きさの診断	

大項目	中項目	小項目
	<p>3. 分娩の取り扱い</p> <p>4. 産科出血 a. 弛緩出血 b. 分娩時異常出血</p> <p>5. 難産 a. 胎児性難産 b. 遷延分娩</p> <p>6. 妊娠中、分娩時の麻酔 (麻酔科学的側面)</p> <p>7. 分娩監視と胎児機能不全 a. 分娩監視装置</p> <p>b. 血液ガス分析 c. 胎児仮死</p>	<p>4) 胎児の下降度の診断・表現法 (下向部、先進部、station、入口部、潤部、峡部、出口部、高在、中在、低在の意味)</p> <p>5) 児頭回旋の診断・表現法</p> <p>6) 頸管開大症 (Friedman 曲線)</p> <p>7) 陣痛の観察、胎児心拍の観察</p> <p>8) パルトグラム</p> <p>9) 分娩中の緊張時の状態把握</p> <p>1) 産婦の取り扱い (分娩介助法 (会陰切開法))</p> <p>1) 鑑別診断 2) 処置 (救急処置、止血法、麦角剤)</p> <p>1) 病因 2) 鑑別診断</p> <p>1) 病因 (巨大児、肩甲娩出難産、水頭症、胎児奇形)</p> <p>1) 定義 2) 病因 3) 処置 (経膈産科手術：吸引分娩、鉗子分娩、 経腹産科手術：帝王切開)</p> <p>1) 妊娠時の生理学的変化 2) 妊娠中の非産科的な外科手術の麻酔 3) 経膈分娩の麻酔 (無痛分娩) 4) 帝王切開の麻酔</p> <p>1) 陣痛曲線 2) 胎児心拍数図 (正常整脈、頻脈、徐脈、一過性徐脈 (early deceleration (早発一過性徐脈)、late deceleration (遅発一過性徐脈)、variable deceleration (変動一過性徐脈))、一過性頻脈、基線変動 STV, LTV, sinusoidal pattern, reactive, nonreactive)</p> <p>3) ノンストレステスト (NST)</p> <p>4) コントラクションストレステスト (CST)</p> <p>5) オキシトシンチャレンジテスト (OCT)</p> <p>1) 児頭採血 1) 定義 2) 病因 3) 診断 (胎児心拍数図、胎児胎盤機能検査法、児頭末梢血 pH)</p>

大 項 目	中 項 目	小 項 目
VII. 産褥	<p>1. 正常産褥</p> <p>2. 異常産褥</p> <p>a. 初期出血 (軟産道裂傷、弛緩出血)</p> <p>b. 晩期出血 (子宮復古不全)</p> <p>c. 産褥熱</p> <p>d. 血栓性静脈炎、白股腫</p> <p>e. 乳腺炎</p> <p>f. 乳汁分泌不全</p> <p>g. 産褥精神病 (マタニティブルー)</p>	<p>4) 病態生理</p> <p>5) 処置</p> <p>6) 予後</p> <p>1) 産褥の定義</p> <p>2) 後陣痛</p> <p>3) 子宮復古</p> <p>4) 悪露 (血性悪露、褐色悪露、黄色悪露、白色悪露)</p> <p>5) 産褥無月経、授乳性無月経、産褥期の諸種ホルモン動態、とくに下垂体・卵巣系)</p> <p>6) 全身の復古</p> <p>1) 病因</p>

成長・発達と小児の医学

学習の到達目標

以下の目標は、常に、発達段階別に人が置かれる環境との関連で学習する。

発達段階別に人が置かれる環境とは、母胎内生活、出生（母胎内から母胎外生活への適応）、乳児期（家庭内生活・完全な依存状態から日常生活動作機能の獲得）、幼児期（日常生活動作機能の確立、家庭外集団との関わり開始、各感染症への免疫の獲得）、学童（家庭外集団への適応、種々能力の基礎形成、家庭外集団での責任ある役割分担開始）、思春期（成人への準備としての精神身体の変化とアイデンティティの確立に至るまでのアンバランス、家庭外集団での責任ある役割、受験勉強の影響など）である。

行動目標

出生から思春期に至る児の

生理的発育を理解し、説明できる。

各機能系の発達を理解し、説明できる。

それぞれの時期で起こりやすい問題、異常、疾患を親子関係を含む環境、社会との関連も含め理解し考える事ができる。

成長・発達と小児の医学到達目標

大項目	中項目	小項目	備考
I . 総論	1. 小児の成長・発達と小児医学の特徴 (ライフスパンを通じた患者の全人格的理解など)		
II . 新生児	1. 新生児の特徴	1) 新生児周産期統計 a) 周産期死亡率 b) 新生児死亡率 c) 諸外国との比較 2) 用語の定義 a) 在胎週数 b) 低出生体重児 c) 未熟児 3) 胎児発育曲線 a) light - for - date b) heavy - for - date 4) 新生児学の特徴 a) 医学的特徴 b) 医療的特徴 5) 新生児の生理 a) 呼吸 ①第1呼吸確立の生理 ②肺の生化学的成熟 ③呼吸調節機構 b) 循環 ①移行期の血行動態の変化 ②胎児循環遺残 c) 神経系 ①神経機能適応 ②神経機能の発達 d) 消化器系 ①消化吸収の特徴 ②機能的発達と適応 e) 代謝・内分泌系 ①カルシウム、リン ②水、電解質 ③内分泌系の発達と適応 f) 血液・免疫 ①生後の適応と血液成分の変化 ②免疫機能の変化	

大項目	中項目	小項目	備考
	2. 新生児、未熟児 1	g) 体温 ①体温調節機能 ②出生後の体温変化 新生児の基礎と臨床など 1) 新生児の診察 a) 分娩室における新生児診察 ①産科情報の評価 ②アプガースコア ③蘇生術 b) 成熟度評価 ① Dubowitz 法 c) 新生児診察 ①一般的注意 ②新生児特有の正常所見 ③神経学的評価 2) 新生児の一般的養護 a) 新生児管理の原則 ①新生児医療の原則 ②ルーチンとポリシー ③出生から退院までの医療の流れ b) 保温 ①中性温度環境 ②低体温 c) 感染防止 ①ガウンテクニック ②院内感染 d) 栄養 ①母乳の特性 ②人工栄養法 ③栄養必要量 e) 母子関係 ①母子相互作用 f) ハイリスク児の養護 ①その定義 ②超未熟児の養護 ③胎内発育遅延 ④母体糖尿病児	

大項目	中項目	小項目	備考
	3. 新生児、未熟児 2	<p>母子感染と予防を含む新生児に起こりやすい疾患</p> <p>1) 新生児診断学</p> <p>a) 主要な症状</p> <ul style="list-style-type: none"> ① odd-looking infant ② not-doing well ③ チアノーゼ ④ 黄疸 ⑤ 新生児メレナ ⑥ 腹満、嘔吐 ⑦ けいれん <p>b) 検査と評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 血液検査 ② CT/EEG/ABR ③ 超音波 <p>c) モニター機器と評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 呼吸心拍 ② 経皮的酸素モニター、パルスオキシメータ <p>2) 新生児疾患各論</p> <p>a) 神経・筋</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 無酸素脳症 ② 頭蓋内出血 ③ ミオパチー <p>b) 呼吸器</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 呼吸窮迫症候群 ② 胎便吸引症候群 ③ 一過性多呼吸 ④ BPD/Wilson - Mikity <p>c) 循環器</p> <ul style="list-style-type: none"> ① チアノーゼ (メトヘモグロビン血症) ② 心不全型心疾患 <p>d) 高ビリルビン血症</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 生理的黄疸 ② 血液型不適合 <p>e) 代謝異常</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 低血糖 ② 低カルシウム血症 ③ 先天代謝異常 <p>f) 血液</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 多血症 	

大項目	中項目	小項目	備考
	<p>4. 先天異常一般</p> <p>5. 新生児医療と保健対策</p>	<p>②貧血〔未熟児貧血（早期貧血と晩期貧血）〕</p> <p>③血小板減少症</p> <p>g) 感染・免疫</p> <p>①敗血症</p> <p>②TORCH</p> <p>③免疫異常</p> <p>h) 分娩外傷</p> <p>①Erbの麻酔</p> <p>②骨折</p> <p>3) その他</p> <p>a) 新生児の予後</p> <p>①新生児医療の倫理</p> <p>1) 配偶子病：染色体異常症（常染色体異常：Down症候群、13trisomy、18trisomy、猫鳴き症候群；性染色体異常：Turner症候群、Klinefelter症候群）</p> <p>2) 胎芽病</p> <p>3) 胎児病</p> <p>4) 小奇形</p> <p>1) 新生児の保健</p> <p>a) ハイリスク児</p> <p>b) 低出生体重児</p> <p>c) 新生児乳児のマススクリーニング</p> <p>2) 妊産婦・褥婦の保健</p> <p>a) ハイリスク妊娠</p> <p>b) 母子健康手帳</p> <p>c) 健康診査</p> <p>d) 妊産婦死亡</p> <p>e) 人工妊娠中絶</p> <p>f) 家族計画</p> <p>3) 環境因子との関わり</p> <p>a) 飲酒と喫煙</p> <p>b) 感染症</p> <p>c) 薬物・放射線</p> <p>d) 環境中有害物</p>	

大項目	中項目	小項目	備考
Ⅲ. 乳幼児の成長・発達	6. 胎児・新生児・乳児に関わる法医学的問題	1) 関係法規 a) 刑法：遺棄罪（飢餓死凍死） b) 相続法 c) 戸籍法 d) 死産証書、死体検案書 2) 民法、刑法上の問題点 a) 胎児の法的取り扱い b) 嬰児殺し c) 被虐待児症候群 d) <u>乳児突然死症候群</u>	
	1. 乳児の特徴と乳児の成長・発達 1	1) 正常乳児 2) 各臓器の成長発達 a) 呼吸器系 b) 消化器系 c) 腎・尿路系 d) 血液及び造血系 e) 内分泌系 f) 循環器系など 3) 体脂肪の構成の成長による変化と役割 4) 体水分組成の成長による変移と役割 5) 骨格筋の成長による変化 6) 以上の変移に伴う外見上の変化	
	2. 乳児の成長 2	1) 栄養所要量（含むビタミン） 2) 母乳栄養（組成、利点） 3) 人工栄養 4) 離乳（鉄欠乏性貧血（離乳食の遅れ、不適當な食餌、断乳の意義） 5) 栄養状態の評価 6) 乳児の代謝の特性 7) 体重増加不良／栄養障害など	
	3. 乳幼児期の精神発達	1) 母子相互作用（愛着行動、基本的信頼） 2) 言語発達 3) 母子分離 4) 対人関係（社会性）の発達 5) 発達の評価（日本版Denver方式を含む発達指数、知能指数） 6) 視力、聴力の発達	

大項目	中項目	小項目	備考
IV. 乳幼児の罹りやすい疾患	<p>1. 乳幼児期の精神発達障害</p> <p>2. 発熱、発疹と関連疾患など</p> <p>3. 咳、呼吸困難と関連疾患など</p>	<p>1) 母子相互作用確立の障害と被虐待児</p> <p>2) 言語発達の障害</p> <p>3) 母子分離の障害</p> <p>4) 対人関係（社会性）の発達の障害（自閉症）</p> <p>5) 視力、聴力の発達の障害（難聴）</p> <p>6) 異常行動（指しゃぶり、異食、チック、憤怒痙攣）</p> <p>1) 体温調節・発熱の機序と全身状態への影響</p> <p>2) 発熱の評価と鑑別診断</p> <p>a) 発疹を伴う場合：感染性疾患（ウイルス：麻疹、風疹、突発性発疹、ヘルパンギーナ、手足口病、急性出血性結膜炎、単純ヘルペス感染症、水痘、带状疱疹、伝染性紅斑、伝染性単核症：細菌：溶連菌感染症）、膠原病関連：川崎病、リウマチ熱、Henoch-Schonlein 紫斑病、血液疾患：組織球増殖症など</p> <p>b) 発疹を伴わない場合：感染性疾患（ウイルス：インフルエンザ、アデノウイルス、ムンプス、エンテロウイルス感染症、ポリオ、細菌性、その他）</p> <p>1) 小児の気道・胸廓の解剖学的特徴</p> <p>2) 小児の呼吸機能の特徴</p> <p>3) 小児の呼吸器疾患の特徴</p> <p>4) 小児の呼吸器疾患の徴候と診察法</p> <p>咳、喘鳴、呼吸困難、睡眠障害</p> <p>5) 呼吸困難を来す疾患（仮性クループ、気道異物、気管支炎、細気管支炎、肺炎、気管支喘息）</p>	

大項目	中項目	小項目	備考
	<p data-bbox="375 1045 666 1103">4. 下痢症、嘔吐と関連疾患など</p> <p data-bbox="375 1354 691 1383">5. 黄疸、腹痛と関連疾患など</p>	<p data-bbox="714 253 1053 311">6) 呼吸器疾患が乳児に及ぼす影響 鼻閉と哺乳（口呼吸の確立）</p> <p data-bbox="714 359 1053 388">7) 小児の罹りやすい呼吸器疾患</p> <p data-bbox="728 397 886 426">a) 上気道疾患</p> <p data-bbox="749 436 1023 465">①上気道炎（かぜ症候群）</p> <p data-bbox="749 475 968 504">②急性咽頭・扁桃炎</p> <p data-bbox="749 513 893 542">③急性咽頭炎</p> <p data-bbox="749 552 1053 610">④急性声門下咽頭炎 クループ</p> <p data-bbox="749 620 893 649">⑤先天性喘鳴</p> <p data-bbox="728 658 886 687">b) 下気道疾患</p> <p data-bbox="749 697 1053 755">①気管・気管支・肺の發育異常</p> <p data-bbox="749 765 872 794">②気管支炎</p> <p data-bbox="749 803 893 832">③細気管支炎</p> <p data-bbox="749 842 1053 929">④肺炎（細菌：肺炎球菌、百日咳、ブドウ球菌、RSウイルス、クラミジア）</p> <p data-bbox="728 938 1053 1025">c) 呼吸中枢の異常：低換気症候群（睡眠無呼吸症候群、Pickwick 症候群を含む）</p> <p data-bbox="714 1054 1053 1112">1) 乳児下痢症（冬季ウイルス性下痢症：ロタ、アデノ）</p> <p data-bbox="714 1122 824 1151">2) 便秘症</p> <p data-bbox="714 1161 920 1190">3) 吸収不良症候群</p> <p data-bbox="714 1199 920 1228">4) 蛋白漏出性腸症</p> <p data-bbox="714 1238 1053 1335">5) 食中毒（腸炎ビブリオ、サルモネラ、ブドウ球菌、エルシニア、カンピロバクター）</p> <p data-bbox="714 1363 1053 1392">1) 乳児肝炎 ウイルス性肝炎</p> <p data-bbox="714 1402 1053 1431">2) 先天性ビリルビン代謝異常</p> <p data-bbox="714 1441 920 1470">3) 肝内胆汁うっ滞</p> <p data-bbox="714 1479 1053 1537">4) Wilson 病（肝レンズ核変性症）</p>	

大項目	中項目	小項目	備考
V. 乳幼児治療・医療の特徴	1. 小児の外科治療	1) 消化器 a) 消化器奇形 ①先天性食道閉鎖と食道狭窄 ②食道アカラシア ③横隔膜疾患 (1)横隔膜ヘルニア ④上部消化管 (1)肥厚性幽門狭窄症 (2)先天性十二指腸閉鎖・狭窄 (3)腸閉鎖症 (4)腸回転異常症 (5)Meckel 憩室 (6)急性虫垂炎 (7)壊死性腸炎 ⑤下部消化管 (1)Hirschsprung 氏病 (2)腸重積症 (3)直腸肛門奇形 ⑥腹壁疾患 (1)臍帯ヘルニア (2)腹壁破裂 (3)臍ヘルニア (4)臍径ヘルニア 2) 胆道閉鎖症 3) 先天性胆道拡張症 4) 小児固型腫瘍 a) 神経芽細胞腫 b) 腎芽腫 c) 肝芽腫 d) 奇形腫群	
	2. 小児泌尿器疾患	1) 低形成、異形成腎と嚢胞性腎疾患 2) 先天性尿路閉塞症 a) 腎盂尿管移行部狭窄症 b) 巨大尿管症 c) 後部尿道弁 3) 乳幼児尿路感染症と膀胱尿管逆流症 (VUR) a) 一次性 VUR b) 二次性 VUR c) 腎瘢痕と逆流性腎症 4) 二分脊椎と神経因性膀胱	

大項目	中項目	小項目	備考
	3. 小児の電解質代謝異常、腎尿管機能異常、輸液療法など	1) 脱水症 2) 浮腫 3) 水中毒症 4) アシドーシス 5) アルカローシス 6) 血清電解質の異常	
	4. 小児の麻酔	1) 小児の解剖と生理 a) 呼吸系 b) 循環系 c) 神経系 d) 代謝系 2) 麻酔法 a) 麻酔器・麻酔法 3) 麻酔管理 a) 麻酔前評価 b) 麻酔前投薬 c) 呼吸管理 d) 循環管理 e) 輸液管理 f) モニタリング g) 合併症	
	5. 小児の事故とその対策	1) 小児の事故の重要性 2) 小児の事故を発達から理解する 3) 誤飲・誤嚥の予防と救急処置 (吐かせて良い物いけない物) 4) 溺水の予防	
	6. 遺伝子と疾患、先天異常と遺伝相談など	1) メンデル遺伝の遺伝相談 2) 非メンデル遺伝の遺伝相談	
	7. 小児医療と保健対策	1) 乳・幼児・小児の保健 a) 新生児・乳幼児の健康診査 b) 感染症予防(予防接種) c) 小児医療費公費負担制度 d) 心身障害児の早期発見と対策 e) 養育医療	
VI. 小児の成長・発達・保健	1. 幼児の成長発達	1) 身体測定と成長評価(Rohres指数) a) 身長・体重・頭囲・胸囲の測定値の評価(成長曲線)	

大項目	中項目	小項目	備考
	<p data-bbox="330 566 666 591">* 2. 幼児のかかりやすい疾患</p> <p data-bbox="375 875 587 900">3. 学童の成長発達 1</p>	<p data-bbox="714 253 968 278">2) 体構成の年齢的变化</p> <p data-bbox="728 287 1053 523">a) 体脂肪の構成の成長による変化と役割 b) 体水分組成の成長による変化 c) 骨格筋の成長による変化 d) 以上の変移に伴う外見上の変化（予防接種、感染症の予防を含む）等</p> <p data-bbox="714 566 1048 797">1) 各種の日常感染症 幼児の感染症の特徴 上気道炎 中耳炎 中枢神経系感染症(各種髄膜炎) 尿路感染症 急性虫垂炎</p> <p data-bbox="714 807 824 832">2) 川崎病</p> <p data-bbox="714 875 1053 1035">1) 身体測定と成長評価 a) 成長曲線（Rohrer 指数、統計的評価） b) 成長パターン 病児の学校生活管理）など</p> <p data-bbox="714 1045 1053 1244">2) 体構成の年齢的变化 a) 乳幼児期につづく体構成成分比の変移 b) 骨格筋の発達 c) 異常の変移に伴う外見上の変化（低身長）</p> <p data-bbox="714 1253 957 1383">3) 学童期の栄養 a) 栄養所要量 b) 栄養状態の評価 c) 学童の代謝の特性</p> <p data-bbox="714 1392 957 1522">4) 学童の発達 a) 運動発達 b) 知能発達 c) 社会的適応の評価</p> <p data-bbox="714 1532 943 1692">5) 各臓器の成長発達 a) 呼吸器系 b) 消化器系 c) 腎・尿路系 d) 血液及び造血系</p>	

大項目	中項目	小項目	備考
Ⅶ. 思春期の成長・発達と問題点	4. 学童のかかりやすい疾患 1	e) 内分泌系 f) 循環器系 g) 精神神経系 アレルギー、免疫、気管支喘息、不明熱、膠原病（リウマチ熱、若年性関節リウマチ、特発性血小板減少性紫斑病、多形滲出性紅斑）、急性腸炎、急性出血性結膜炎（アポロ病）プール熱、マイコプラズマ肺炎など	
	5. 学校保健	1) 学齢期の罹患と死亡 2) 学校医と保健管理 a) 学校医と学校保健法 b) 健康診断（就学時、定期、臨時） c) 学校伝染病 3) 学校環境、安全 a) 学校環境衛生基準 b) 事故と対策	
	6. 親子関係の精神医学	1) 親の役割 2) 親の態度と児童の人格形成 3) 崩壊家族と欠損家族 4) 精神障害と家族 a) 登校拒否 b) 家庭内暴力 c) 摂食障害 d) 精神分裂病 5) 家族療法	
	7. 学童の精神発達	夜尿症、遺尿症、遺糞症、夜驚症、チック	
	8. 家族への対応	死に至る児と家族の心理的支持、インフォームド・コンセント	
	1. 思春期の成長・発達 1	1) 概念 a) 学童期の後半から思春期が始まる	

大項目	中項目	小項目	備考
	<p>2. 思春期・青年期の心理と精神（発達）障害</p> <p>3. 思春期に問題となりやすい疾患と反応</p>	<p>b) 小児が成人となり生殖能力を有するための変化の時期（個人差大）</p> <p>2) 身体の成長発達</p> <p>a) 二次性徴</p> <p>b) 月経開始と精通</p> <p>c) growth spurt</p> <p>3) 精神発達</p> <p>a) 思春期危機</p> <p>b) 自己同一性形成（性役割）</p> <p>c) 学習と社会経験</p> <p>d) 慢性疾患と管理</p> <p>1) 心理的特徴</p> <p>a) 前青年期</p> <p>b) 青年期前期</p> <p>c) 青年期中期</p> <p>d) 青年期後期</p> <p>2) 精神（発達）障害</p> <p>a) 登校拒否</p> <p>b) 暴力・いじめ</p> <p>c) 非行</p> <p>d) 対人恐怖</p> <p>e) 強迫症</p> <p>f) 摂食障害</p> <p>g) アパシー症候群</p> <p>h) 青年期境界例</p> <p>i) 精神分裂病</p> <p>j) 躁うつ病</p> <p>1) ヒステリー</p> <p>2) 過換気症候群</p> <p>3) 神経性食思不振症</p> <p>4) 神経性過食症 生育歴と不登校家庭内暴力</p>	

加齢・老化と高齢者の医学到達目標

大項目	中項目	小項目
I . 総論	<ol style="list-style-type: none"> 1. 加齢医学 2. 成人病学 3. 老年病学 4. 基礎老化学 5. 老年社会学 	
II . 加齢	<ol style="list-style-type: none"> 1. 加齢の理論生物学 2. 加齢の分子生物学 3. 加齢の細胞生物学 4. 生体調節機構と加齢 5. 生理機能の加齢変化 6. 身体の変化 7. 心理、精神機能の加齢 	加齢と老化現象 生命歴変数としての加齢と寿命 加齢と突然変異 加齢と遺伝子作用 1) テロメア 2) 利己的遺伝子 3) 老廃物 a) アミロイド b) リポフスチン c) 他 1) 分裂寿命 2) 細胞死 a) プログラム死 b) エントロピー死 1) 神経系と加齢 2) 内分泌系と加齢 3) 加齢と免疫機能 1) 脈管、心臓、神経、腎、血液、呼吸器、 感覚器、皮膚、内分泌、骨、軟骨 1) 記憶力、学習力、知能、感情、意 欲、性格の変化、行動の変化
III . 老化	<ol style="list-style-type: none"> 1. 老化の機序 2. 老化制御 3. 老化のモデル 4. 生理的老化と病的老化 5. 老化度の判定 6. 老年者の死因 7. 老年症候群 	1) 老化学説： a) プログラム説（遺伝子説） b) エラー説、c) クロスリンキング説、 d) フリーラジカル説、 e) 免疫異常説、f) 代謝調節異常説、 g) アポトーシス 1) 食餌制限 2) フリーラジカルスカベンジャー 1) 誤嚥性肺炎、痴呆、転倒、失禁、 褥創、寝たきり
IV . 中年期	<ol style="list-style-type: none"> 1. 三大成人病 2. 動脈硬化の危険因子 	1) 悪性新生物 2) 心臓病 3) 脳血管障害 1) 高血圧、高脂血症、糖尿病、肥満、 高尿酸血症、喫煙、ストレス、運 動不足、行動パターン 2) ライフスタイル 3) 疫学

大項目	中項目	小項目
V. 老年期	3. 月経異常	1) 閉経 2) 稀発月経 3) 頻発月経
	4. 更年期障害 (更年期不定愁訴)	1) 自律神経失調 2) 心因、精神神経症状 3) 皮膚、粘膜、乳房の萎縮 4) 性器の萎縮、脱出 5) 脂質代謝異常、動脈硬化
	5. 骨粗鬆症	1) I型骨粗鬆症 (閉経後骨粗鬆症) 2) II型骨粗鬆症 (老人性骨粗鬆症) 3) 骨塩量減少 4) 関節痛、腰痛 5) 骨折
	6. ホルモン補充療法	1) 経口投与方法 2) 経皮投与方法
	7. 閉経後脂質代謝異常	1) 動脈硬化 2) 高血圧 3) 狭心症、心筋梗塞 4) 脳血管障害
	8. 性器の萎縮	1) 子宮下垂 2) 子宮脱 3) 膀胱脱 4) 直腸脱
	9. 中年危機 (精神的側面)	
	1. 病歴のとり方	1) 食欲不振、不眠、抑うつ、頭痛、 難聴、めまい、肩こり、胸痛、息 切れ、呼吸困難、咳、腹痛、吐血、 下血、便秘、浮腫、腰痛、四肢痛、 関節痛、発疹、褥創、認知症
	2. 高齢者注意すべき徴候	1) 一般的診察 (老化の徴候)
	3. 高齢者の診療	2) 寝たきり老人の診察時の注意 3) 認知症の診断と重症度判定 4) 基本的な日常生活動作 (ADL) 5) 道具を用いた日常生活動作 (IADL) 6) 介護の必要度の判定 7) 総合機能評価
	4. 高齢者の薬物療法	1) 薬物動態学 2) 薬力学 3) 薬物有害作用
5. 神経疾患	1) 高齢者の神経疾患	
6. 循環器疾患	1) 循環機能と老化 2) 動脈硬化と老化	
7. 腎疾患	1) 腎機能と老化 2) 高齢者の水電解質異常 3) 高齢者の腎疾患	
8. 消化器疾患	1) 高齢者の消化器疾患	
9. 呼吸器疾患	1) 肺機能と老化 2) 高齢者の呼吸器疾患	
10. 内分泌・代謝疾患	1) 下垂体・副腎機能と老化 2) 高齢者の下垂体、副腎、性腺疾患	
11. 血液疾患	1) 造血と老化	

大項目	中項目	小項目
	12. 感染症 13. 皮膚科疾患 14. 泌尿器科疾患 15. 婦人科疾患 16. 眼科、耳鼻科疾患 17. 整形外科疾患 18. 高齢者麻酔 19. 口腔外科・歯科 20. 高齢者の看護 21. 精神障害 22. 老人精神衛生	2) 血液凝固と老化 3) 高齢者の血液疾患 1) 高齢者の host 側因子 2) 高齢者の感染症 1) 皮膚変化と老化 2) 高齢者の皮膚疾患 1) 老化と男性機能 2) 老化と排尿機能 1) 骨粗鬆症 2) 老人性陰炎 1) 視聴覚機能と老化 2) 高齢者の眼・鼻疾患、聴覚障害 1) 筋・骨・軟骨と老化 2) 高齢者の骨折 3) 高齢者のリハビリテーション 1) 手術と老化度 2) 麻酔および疼痛対策 3) 術前・術後の管理 4) 高齢者の外科的疾患の特徴 1) 老年者の心理 2) 環境 3) リハビリテーション 1) 神経症その他 2) 脳血管性精神障害期 3) 感情精神病 4) 妄想症候群 5) 老年期認知症 6) 初老期認知症 7) アルコール中毒 1) 老人の自殺
VI. 成人・老人保健	1. 成人期医療の現状と保健対策 2. 高齢者の保健・福祉・介護	1) 主な生活習慣病の罹患・死亡の現状と動向 a) 悪性新生物、b) 心疾患、 c) 脳血管疾患 2) 主な生活習慣病の危険因子 a) 医療、b) 保健事業 3) 生活習慣病予防と老人保健法 1) 人口の高齢化 2) 要介護老人 a) 寝たきり老人、b) 痴呆老人 c) 日常生活動作 (ADL) 3) 保健・福祉・介護の現状 a) 老人福祉法、b) 介護保険、介護サービスプラン、c) 老人保健福祉計画

環境と健康・疾病・障害到達目標

大項目	中項目	小項目	備考
I . 社会医学序論	1. 社会医学の概念	1) 歴史的変遷 2) 目的と意義 3) 社会と環境の変化 4) 疾病予防、健康増進と社会医学 5) 保健・医療・福祉と社会医学	衛生学公衆衛生学
II . 環境保健	1. 環境と適応 2. 環境汚染の評価と対策 3. 大気の性状と健康影響 4. 上水道と下水道 5. 環境汚染の発生要因と現状 6. 公害の健康影響と対策 7. 廃棄物処理 8. 地球環境の変化と健康影響 9. 放射線の健康影響と管理	1) 環境の概念 2) 生態系と生物濃縮 3) 有害物質の吸収・排泄 1) 環境アセスメント 2) 環境基準、排出規制 3) 環境モニタリング 1) 水質基準 2) 浄水法と消毒 3) 水系伝染病 4) 汚染処理 1) 大気汚染とその指標 2) 水質汚染とその指標 3) 土壌汚染 4) 内分泌かく乱化学物質 1) 公害の概念 2) 公害のエピソード 3) 公害健康被害補償制度 1) 一般廃棄物 2) 産業廃棄物 3) 感染性廃棄物 4) リサイクル 1) 地球温暖化 2) 酸性雨 3) 砂漠化 4) オゾン層破壊 1) 非電離放射線と管理 2) 電離放射線の健康影響 3) 放射線管理	衛生学公衆衛生学
III . 生活環境とリスク	1. 食品と健康	1) 国民の平均的摂取量と健康 2) 健康問題と栄養指導 3) 栄養所要量と栄養摂取量の推移	衛生学公衆衛生学

大項目	中項目	小項目	備考	
IV. 産業中毒およびその他の職業性疾患	2. 喫煙およびアルコールと健康	4) 食品の安全性 (食品添加物、残留農薬、特別用途食品、内容表示)	衛生学公衆衛生学	
		1) 喫煙の現状 2) 喫煙の健康影響 3) 禁煙教育 4) 飲酒の現状 5) 飲酒の健康影響 6) アルコール依存症		
	3. 運動と健康	1) 身体活動目標値 2) 運動の効用 3) 家庭内活動		衛生学公衆衛生学
		1. 金属中毒 2. ガス中毒 3. 有機溶剤中毒 4. 有機化学物質中毒 5. 無機化学物質中毒 6. 農薬中毒 7. 職業病 8. じん肺 9. 作業環境による障害		
	10. 職業性アレルギー	1) 職業性腰痛 2) けい肩腕障害 3) VDT 作業による障害		
	11. 酸素欠乏症			
	12. 過労性疾患			
	V. 産業保健	1. 現状と動向	1) 業務上疾病の発生状況	衛生学公衆衛生学
		2. 産業医と労働安全衛生管理	1) 健康管理、作業環境管理、作業管理 2) 許容濃度と管理濃度 3) 生物学的モニタリング 4) 労働災害 5) トータルヘルスプロモーションプラン (THP) 6) 管理体制 7) 産業医の職務	
	VI. 感染症	1. 感染症法		衛生学公衆衛生学
		2. 結核予防法		
		3. 予防接種		

大項目	中項目	小項目	備考
VII. 人の死	1. 死の概念と定義	1) 死の判定 2) 心臓死、脳死	法医学
	2. 死後変化	1) 早期死体現象 2) 晩期死体現象 3) 死後経過時間の推定	
	3. 異状死	1) 異状死の判断 2) 異状死体届出の義務 3) 死体検案 4) 監察医制度 5) 司法解剖、行政解剖、承諾解剖	
VIII. 異状死・突然死	1. 損傷による死	1) 損傷の種類 a) 鋭器損傷 b) 鈍器損傷 c) 銃器損傷 2) 自傷と他傷、事故 3) 損傷死の機序 a) 臓器損傷 b) 頭部外傷 c) 二次性障害 d) 死因の競合と共同	法医学
	2. 窒息・呼吸不全による死	1) 窒息の要因 a) 縊頸、絞頸、扼頸 b) 溺水（水中死体と溺死体） c) 気道内異物 d) 鼻口部閉鎖 e) 胸郭圧迫 f) 酸素欠乏 2) メカニズム 3) 症状・経過 4) 窒息の法医学的診断 a) 溢血点 b) 索痕・圧迫痕 c) 自他殺・事故の別	
	3. 薬毒物中毒及び中毒死	1) 関係法規（麻薬及び向精神薬取締法、覚せい剤取締法、道路交通法） 2) 診断及び検査 a) アルコール・睡眠薬・向精神薬・解熱鎮痛薬・麻薬・覚醒剤・有機溶剤依存又は中毒、毒劇物中毒	法医学

大項目	中項目	小項目	備考
IX. 疫学	4. 突然死（内因性急死）	b) 血中濃度（一酸化炭素、アルコール、睡眠剤、農薬等）と症状	法医学
		c) 救急医療での簡易迅速検査	
	d) 剖検所見		
	e) 急死者に対する対応		
	f) 自他殺・事故の別		
5. 温度異常、電気などによる傷害と死亡	1) 急死者の取り扱い手続き	法医学	
	2) 来院時心肺停止		
	3) 突然死統計		
	4) 発症時の状況		
	5) 内因性急死の種類		
	a) 循環器系の疾患（心臓突然死）		
	b) 呼吸器系の疾患		
	c) 神経系の疾患		
	d) 消化器系の疾患		
	e) 全身性の疾患		
1. 疫学の方法	2. 疫学研究のデザイン	f) 妊娠、分娩中の疾患	衛生学公衆衛生学
		6) 乳幼児突然死症候群（SIDS）	
		1) 発生機序、諸条件	
		2) 焼死、凍死、感電死、熱傷死	
		3) 死因の鑑別	
3. 臨床疫学的指標	4. 根拠に基づいた医療（EBM）	4) 自他殺・事故の別	
		5) 焼死体の個人識別	
		1) 全数調査と標本調査	
		2) 比と率	
		1) 記述疫学	
		2) 分析疫学	
		3) 因果関係	
		1) 検査前確率	
		2) 感度・特異度	
		3) 検査後確率	
		4) ROC 曲線	
		1) 文献の批判的吟味	
		2) 研究デザインと根拠（エビデンス）の強さ	
		3) 診療ガイドライン	

社会制度と保健・医療・福祉到達目標

大項目	中項目	小項目	備考
I . 保健と予防	1. 疾病の予防と健康増進	1) 健康の概念 2) 予防の概念 a) 一次予防 b) 二次予防 c) 三次予防 3) 健康・学習、保健指導、健康相談 4) 健康診断とスクリーニング 5) ヘルスプロモーション	衛生学公衆衛生学
	2. 人口・保健・疾病統計の方法と現状	1) 国勢調査（人口静態統計） 2) 人口構造と高齢化 3) 人口動態統計 a) 出生と死亡 b) 結婚と離婚 c) 死産 d) 人口再生産と合計特殊出生率 e) 生命関数と平均余命 4) 国際疾病分類（ICD） 5) 国民生活基礎調査 6) 患者調査 7) 身体障害児実態調査、身体障害者実態調査	衛生学公衆衛生学
	3. 世界の保健問題（総論）	1) 先進国と開発途上国における保健問題の相違と較差 2) グローバルイシュー（地球環境問題） 3) 国際保健プログラムに含まれる活動 a) 国際保健の基礎－プライマリーヘルスケアとは何か b) 住民参加 c) 適正技術 d) 健康教育 e) 人材育成 f) フィールドにおける活動項目	国際環境・熱帯医学
	4. 世界の保健問題（各論）	1) 途上国における保健医療実態 2) 感染症コントロール a) ポリオ・麻疹根絶活動 b) 破傷風コントロール	国際環境・熱帯医学

大項目	中項目	小項目	備考
	5. 国際保健協力	c) 急性呼吸器感染症対策 d) 下痢症対策 e) マラリアコントロール f) デング熱コントロール g) メジナ虫感染根絶活動 h) 駆虫活動 i) 結核コントロール j) ハンセン病コントロール 3) エイズ・HIV 感染症関連の活動 4) リプロダクティブヘルス関連の活動 5) 栄養問題に関連する活動 6) 看護協力 7) 水・環境衛生プログラムその他の活動 1) 援助を取り巻く国際情勢 2) 開発援助 a) 公的開発援助と非公的開発援助 b) 多国間援助と二国間援助 3) 日本の開発援助 a) 国際協力機構 b) 厚生労働省 c) 外務省 d) 国際協力銀行 4) 保健関連の国際機関 a) 国際連合 b) 世界保健機関 c) 国際児童基金（ユニセフ） d) 世界銀行 5) 他国の公的開発援助 6) 非政府組織の援助活動 7) 援助の優先度・方針・分野・実施	国際環境・熱帯医学
	1. 保健・医療・福祉関連法規	1) 医師法 2) 医療法 3) 刑法 4) 死産の届出に関する法律 5) 死体解剖保存法	衛生学公衆衛生学

大項目	中項目	小項目	備考
		<ul style="list-style-type: none"> 6) 臓器移植法 7) 薬事関連法規 <ul style="list-style-type: none"> a) 薬事法 b) 毒物及び劇物取締法 c) 麻薬及び向精神薬取締法 d) 覚醒剤取締法 8) 母子保健関連法規 <ul style="list-style-type: none"> a) 母子保健法 b) 母体保護法 9) 学校保健安全法 10) 老人保健法 11) 産業保健関連法規 <ul style="list-style-type: none"> a) 労働基準法 b) 労働安全衛生法 c) 労働者災害補償保険法 12) 精神保健福祉法 13) 感染症関連法規 <ul style="list-style-type: none"> a) 感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律（感染症法） b) 検疫法 c) 予防接種法 14) 食品衛生法 15) 環境保健関連法規 <ul style="list-style-type: none"> a) 環境基本法 b) 公害健康被害補償法 c) 水道法 16) 医療保障関連法規 <ul style="list-style-type: none"> a) 健康保険法 b) 国民健康保険法 17) 社会福祉関連法規 <ul style="list-style-type: none"> a) 老人福祉法 b) 生活保護法 c) 児童福祉法 d) 身体障害者福祉法 e) 知的障害者福祉法 f) 障害者基本法 g) 介護保険法 18) 地域保健法 19) 健康増進法 20) 個人情報保護法 	

大項目	中項目	小項目	備考
	2. 医事法と医療事故	<ul style="list-style-type: none"> 1) 患者の権利と医師の義務 2) 医師の法的義務 3) 医療行為の3要件 4) 医療事故 <ul style="list-style-type: none"> a) 医療事故、医療過誤、医事紛争、医事裁判 b) 法的責任（刑事責任、民事責任、行政処分） c) 発生要因と予防 	法医学
	3. 司法精神医学 <ul style="list-style-type: none"> a. 司法精神医学の役割 b. 精神鑑定 c. 触法精神障害者 	<ul style="list-style-type: none"> 1) 刑事鑑定 <ul style="list-style-type: none"> a) 犯罪と精神医学 b) 責任能力 c) 責任無能力 <ul style="list-style-type: none"> c-1) 心神喪失 d) 限定責任能力 <ul style="list-style-type: none"> d-1) 心神耗弱 2) 民事鑑定 <ul style="list-style-type: none"> a) 行為能力 b) 成年後見制度 <ul style="list-style-type: none"> b-1) 後見 b-2) 補佐 b-3) 補助 3) 精神鑑定の実際 <ul style="list-style-type: none"> a) 精神鑑定書の構成 	精神医学
Ⅲ. 保健医療	1. 衛生行政と地域保健	<ul style="list-style-type: none"> 1) 行政組織の概要 <ul style="list-style-type: none"> a) 国と地方公共団体 b) 地方衛生研修所 c) 保健所 d) 市町村保健センター e) 社会福祉関係施設 2) 医療法 <ul style="list-style-type: none"> a) 地域医療計画 b) 2次医療圏 c) チーム医療 3) プライマリケア <ul style="list-style-type: none"> a) 機能と概念 	衛生学公衆衛生学 医療・病院管理学

大項目	中項目	小項目	備考	
	2. 精神保健、精神障害	b) Alma Ata 宣言	衛生学公衆衛生学	
		4) 在宅医療（ケアを含む） 5) 救急医療 6) へき地医療 7) 医療情報システム 8) 地域連携		
	3. 最近の保健医療問題とその背景	1) ライフサイクルからみた精神保健 2) 生活の場から見た精神保健 3) 精神保健、精神障害関連統計 4) 精神保健行政 a) 精神保健福祉法 b) 精神保健行政の組織 c) 精神保健・医療の施設		
		4. 保健・医療・福祉の組織		1) 人口構造の変化 2) 疾病構造の変化 3) 生活様式、家族の変貌 4) 医療経済上の制約 5) 地域社会の変貌 6) 労働態様の変化
		5. 保健医療システム		1) 医療施設 2) 保健施設 3) 介護（福祉）施設 4) 連携体制
IV . 社会保障と福祉・医療経済	1. 社会保障制度	1) 効率性 2) 統合調整（地域保健計画） 3) 医療の質（クオリティー）	医療・病院管理学	
	2. 医療経済	1) 社会保障とは 2) 社会保障制度 3) 医療保険 4) 医療保険の問題点 5) 介護保険と医療	医療・病院管理学	
V . 医療・病院管理	1. 病院の理念と組織	1) 国民医療費 2) 医療費の支払 3) 国家財政と医療 4) 医療の経済的評価	医療・病院管理学	
		1) 医療法 2) 地域医療と病院 3) 診療組織	医療・病院管理学	

大項目	中項目	小項目	備考	
IX. 疫学	2. 病院の評価と倫理	4) 看護組織	医療・病院 管理学	
		1) 病院医療機能評価		
	3. 病院におけるリスクマネジメント	2) 患者の権利とインフォームドコンセント	医療・病院 管理学	
		1) リスクマネジメントとは		
		2) インシデント・レポートとは		
		3) 事例分析手段とは		
	4. チーム医療	4) 事故の再発の防止策とは		
		1) チーム医療とは		
		2) クリニカルパス		
	IX. 疫学	1. 疫学の方法	3) 地域連携	衛生学公衆 衛生学
			1) 全数調査と標本調査	
		2. 疫学研究のデザイン	2) 比と率	
1) 記述疫学				
2) 分析疫学				
3. 臨床疫学的指標		3) 因果関係		
		1) 検査前確率		
		2) 感度・特異度		
		3) 検査後確率		
4. 根拠に基づいた医療 (EBM)		4) ROC 曲線		
		1) 文献の批判的吟味		
		2) 研究デザインと根拠 (エビデンス) の強さ		
	3) 診療ガイドライン			

臨床診断各論到達目標

大項目	中項目	小項目	備考
I . 問題志向型システム (POS)	1. POMR	1) 基礎データ 2) 問題リスト 3) 初期計画 4) 経過記録 5) 退院時要約	
	II . 医療面接	1. 面接のマナー 2. 医療面接の意義 3. 話しの進め方 4. 面接者の態度 5. 感情面への対応 6. 病歴 7. 患者・家族の考え方・希望 8. 患者教育と治療への動機づけ	1) 身だしなみ 2) 挨拶、自己紹介 3) 言葉づかい 4) プライバシーの保護 1) 医療情報の収集 2) 医師患者関係の確立 3) 教育、調整、動機付け 1) 質問法の選択 2) 傾聴の仕方 3) 非言語的コミュニケーション 1) 共感的態度 2) 理解的態度 3) 支持的態度 4) 評価的態度 5) 解釈的態度 6) 調査的態度 7) 逃避的態度 1) 反映 2) 正当化 3) 個人的支援 4) 協力関係 5) 尊重 1) 主訴 2) 現病歴 3) 既往歴 4) 家族歴 5) 社会歴・患者背景 6) システム・レビュー 1) 解釈モデル 2) 患者・家族の価値観 1) インフォームド・コンセント

大 項 目	中 項 目	小 項 目	備 考
Ⅲ. 身体診察 および 基本手技	1. 診察の基本手技	1) 診察のあり方、診察時の配慮、医療安全 2) 視診 3) 触診 4) 打診 5) 聴診	
	2. 全身状態	1) バイタルサイン：血圧測定、脈拍、呼吸数、呼吸パターン、体温 2) 精神状態、意識状態 3) 全身の外観体型、栄養、姿勢、歩行、顔貌、皮膚	
	3. 頭頸部	1) 顔面、頸部 2) 眼 3) 耳、鼻 4) 舌、咽頭、扁桃 5) 甲状腺、頸静脈、リンパ節	
	4. 胸部	1) 胸郭 2) 肺：打診、聴診（呼吸音、副雑音） 3) 心臓：心尖拍動、振戦、心音、心雑音	
	5. 腹部	4) 乳房 1) 形、表面 2) 肝、脾、腎、リンパ節 3) 筋性防御、圧痛、Blumberg 徴候 4) 腹水 5) 腸雑音、血管雑音 6) 直腸診	
	6. 四肢と脊柱	1) 浮腫 2) 動、静脈の触診 3) 肢位 4) 関節 5) リンパ節	
	7. 性器（診察の要点と手順を理解する）	1) 男性 2) 女性	
	8. 神経系	1) 意識状態 2) 脳神経	

大項目	中項目	小項目	備考
IV. 検査	9. 外科系基本手技 10. 救急 1. レントゲン写真の読影 2. 心電図の読み方	3) 上肢の運動系 4) 起立と歩行 5) 下肢の運動系 6) 徒手筋力検査 7) 感覚系 8) 反射 9) 髄膜刺激徴候 1) 手洗い 2) 滅菌手袋の装着 3) ガウンテクニック 4) 縫合 5) 採血 1) 心肺蘇生法	

剖検検討臨床病理実習（学生 CPC）到達目標

大項目	中項目	小項目
症例解析 (臨床)	疾病の素因	既往歴 家族歴 年代 職歴 嗜好 社会との関係
	臨床経過	初発症状 症状の変化 臨床検査 転帰
	診断	末梢血 骨髓像 血清の各成分 X-P CT US 分子生物学 遺伝子解析 系統的疾患
	治療	治療方針 外科的治療 手術適応 内科的治療 抗生物質 免疫療法 補液 輸血 治療効果
症例解析 (病理)	体表観察	体格、体型 欠損（奇形を含む） 貧血、黄疸 肥満、るいそう 局所的異常 出血、術創の有無 死後時間

大項目	中項目	小項目
	剖検検索 (肉眼) (顕微鏡的) 症例検討 (ディスカッション)	体腔の観察 諸臓器の配置と異常 諸臓器の位置的関連 諸臓器の病態 標本製作技術の学習 光顕的諸臓器観察 組織化学 免疫組織 電顕 病因の検討 病因と病態 治療効果 主病変と副病変 死因 諸臓器と病態との検討 近傍疾患との鑑別 剖検診断

腫瘍—基礎と臨床— 到達目標

大項目	中項目	小項目
腫瘍の基礎	1. 病理・病態	1) 腫瘍の定義・概念 2) 良性腫瘍・悪性腫瘍 3) 上皮性腫瘍・非上皮性腫瘍 4) 転移・浸潤
	2. 発生要因	1) 遺伝的要因 2) 外的要因 3) がん遺伝子とがん抑制遺伝子 4) シグナル伝達 5) アポトーシス 6) 染色体異常
	3. 疫学	1) 癌の疫学 2) 臨床試験
腫瘍の臨床	1. 症候・診断	1) 症状 2) 検査 3) 組織診断・細胞診断 4) 画像診断 5) 遺伝子診断 6) 腫瘍マーカー 7) 病期分類 8) 予後因子
	2. 治療	1) 手術療法 2) 化学療法 3) 放射線療法 4) 緩和療法 5) 支持療法 6) 集学的治療
	3. 診療	1) チーム医療 2) 生命倫理